



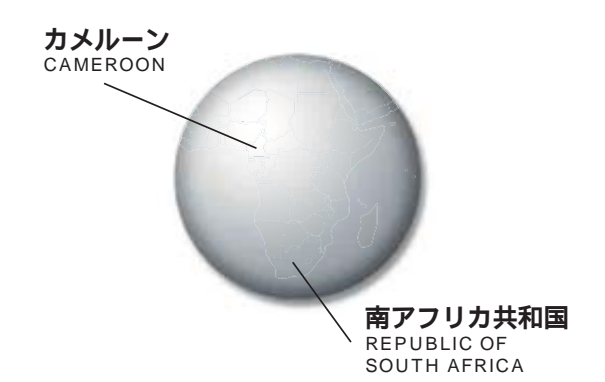
2010年のワールドカップ開催に向けて急ピッチで建設が進むリンポポ州ポロクワネ市のスタジアム

FIELD SKETCH

子どもたちとのサッカーを通じて感じた未来の輝き

2008年2月、元サッカー日本代表でJICAオフィシャルサポーターの北澤豪さんが南アフリカ共和国とカメルーンを訪問し、サッカー教室を開いた。子どもたちとの触れ合いを通じて、さまざまな問題を抱えながらも成長に向けて進んでいくアフリカの大地に輝く可能性と明るい未来を感じ取ったようだ。

文・写真 = 神谷 望 (JICAアフリカ部南部アフリカ第一課)
text and photos by Kamiya Nozomu



2010年 ワールドカップ開催国へ

北澤さんがアフリカを訪れるのは2004年にザンビアを訪問して以来のこと。3年ぶりに降り立つアフリカの大地に北澤さんも興奮気味だ。
「楽しいね。雰囲気がいい。アフリカというのは人間的な部分がすごく感じられるところじゃないかと思えますね」

今回、訪れたのは南アフリカ共和国(以下、南アフリカ)とカメルーン。ともにサッカーでは世界的に名の知れた国だ。「伝え方によっては分かりやすくも難しくもなる。それぞれの国が持っているものを理解し、それに応じた(サッカーの)指導をして将来子どもたちの役に立つものにしてあげないといけないと思う」

北澤さんのアフリカ理解の旅が始まった。南アフリカは2010年のサッカーワールドカップ開催国であり、現在、各地でスタジアムの建設をはじめ、道路・鉄道などインフラの整備が急速に進んでいる。同国はアフリカの経済の4割を占める大国であり、特に都市部での成長には目を見張る。しかし、国内の格差の問題、治安の悪化、電力不足、技術不足など、依然として多くの問題が残っている。



ムブランガ州マレラネでサッカー教室を開き、子どもたちを指導する北澤さん。彼らの高い能力に将来への希望を感じた



マレラネの小学校に寄贈したサッカーボールを校長先生(中央の女性)に手渡す北澤さん

隊・理数科教師隊員の寺西綾子さんが活動している小学校を訪問した。時には60人も入るといふ小さな教室で子どもたちは元気に勉強している。そんな彼らはサッカーが大好きだ。この国で最も人気のあるスポーツはもちろんサッカー。同国代表はアフリカ復権を目指して頑張っているが、子どもたちとのサッカー教室を通じて、将来の原動力となる彼らの中に北澤さんは希望の光を見つけた。
「想像以上に能力が高く、驚きました。アフリカの子どもたちがしっかり指導を受けてトレーニングしたら、世界に通じる選手がたくさん出てくるのではないかな」

地域格差を解消するために

リンポポ州ポロクワネ市では建設中のサッカースタジアムを視察した。09年3月の完成を目指して07年から急ピッチで建設を進め



北澤さんはリンポポ州で「住民参加型HIV/AIDS予防啓発及び感染症支援強化プロジェクト」を視察し、HIV感染者を支援する地元NGOのスタッフから話を聞いた

NOTE

中東でも
サッカー教室を開催

いつも世界を飛び回っている北澤さん。2007年11月にはヨルダンとパレスチナを訪れた。

北澤さんはこれまでの中東訪問でもパレスチナ難民の子どもたちとの交流を繰り返してきているが、この時はヨルダンで同国最大のパレスチナ難民キャンプであるバカアを訪問。JICAが支援している難民女性のための職業訓練センターを視察し、訓練生の自宅を訪ね、難民女性やその家族と交流を深めた。

また、近隣難民キャンプの子どもたち100人を対象にサッカー教室を開催。サッカーのトレーニングを受けたことのない彼らには新鮮な経験だったようだ。

パレスチナでは折しも「ジェリコ日本祭り」の真っ最中。日本人専門家や青年海外協力隊員が活動の展示や出店を行っている広場でサッカー教室が開かれた。広場に足を踏み入れた途端、06年の北澤さんの訪問を覚えている子どもたちが「キタザワ」と連呼しながら取り囲む。うれしい再会に目をきらきらさせる彼らとサッカーを楽しんだ。

(文 = 折田朋美 / JICA広報室)



現金収入向上のためキノコ栽培の訓練を受けた難民女性の自宅を訪ねた北澤さん



総合スタジアムでサッカークラブに所属する子どもたちに熱心に指導する北澤さん

個人能力はもろく、チームとしての規律みたいなものも持っていない。こつこつ部分が若い世代にあるのを感じられ、今後のカメルーンが楽しみだ」	「子どもたちは、個人の能力はもろく、チームとしての規律みたいなものも持っていない。こつこつ部分が若い世代にあるのを感じられ、今後のカメルーンが楽しみだ」
「アフリカの国々は国民性も異なり、長・欠点にも差があるが、行く先々で大きな可能性を持つ子どもたちがいっぱいいる。世界のサッカーの勢力図を変えていく存在となるルーツが彼らにあるな」と感じた。ただし、それに気付いていない子どもも多く、気付かせてあげるような指導を行えば、お互いの喜びにもなるし、それが国の発展につながるきっかけになるかもしれない。将来が非常に豊かだと思つ」	「アフリカの国々は国民性も異なり、長・欠点にも差があるが、行く先々で大きな可能性を持つ子どもたちがいっぱいいる。世界のサッカーの勢力図を変えていく存在となるルーツが彼らにあるな」と感じた。ただし、それに気付いていない子どもも多く、気付かせてあげるような指導を行えば、お互いの喜びにもなるし、それが国の発展につながるきっかけになるかもしれない。将来が非常に豊かだと思つ」
北澤さんが訪れた先々で、子どもたちから感謝の声が上がる。サッカーを通じたコミュニケーション、北澤さんの思いは、彼らを通じてアフリカの成長に結び付くはずだ。	北澤さんが訪れた先々で、子どもたちから感謝の声が上がる。サッカーを通じたコミュニケーション、北澤さんの思いは、彼らを通じてアフリカの成長に結び付くはずだ。



ンゴレマコンでは、中学生たちに混じってむき出しのグラウンドで試合を楽しんだ

可能性の大陸、アフリカ

活動中の久保田拓隊員が教える地元の中学生30人ほどと一緒に汗を流した。地面むき出しのグラウンドで、久保田さんの指導のもとで伸び伸びとサッカーを楽しむ子どもたちの姿に、北澤さんも満面の笑顔だった。そして、総合スタジアムで地元のサッカークラブに所属する子どもたちを対象に行われたサッカー教室では、彼らのレベルの高さに北澤さんの指導にも力が入った。

北澤さんは「アフリカは可能性の大陸だ」と語る。

ているが、現状は本当に完成するか不安になるほど。しかし、この背景には、労働者の3割を地元で雇用するという国の政策がある。同国は産業人材の育成を最重要課題とし、特に格差が深刻な地方では労働者の技術向上がカギを握る。雇用の創出が地元にもたらす経済効果は高く、ワールドカップが国の経済全体に大きな力となっていることは間違いない。労働者からも絶対完成

サッカー強豪国、カメルーン

カメルーンはアフリカ中部に位置し、2

00以上の民族を抱えるアフリカの縮図といわれる国だ。貧困が依然大きな問題だが、政治的安定を背景に経済成長が進んでいる。また、サッカー強豪国で、今年のアフリカ大陸選手権では準優勝に輝いた。北澤さんは現役時代のチームメイトだったエムボマ選手の母国としてなじみのある国で強い関心を持っている。そのカメルーンに対し、日本は首都ヤウンデにある総合スタジアムの改修を支援した。今ではきれいな芝の上で国の威信を懸けた試合が行われており、大人から子どもまで日本への感謝の気持ちを伝えてくれる。また、日本への感謝の気持ちを伝えてくれる。「ピッチ(グラウンド)が素晴らしい」とは、子どもたちに夢を持たせるきっかけの一つになるのではないかと北澤さんも喜びの表情を見せた。また、「こうした施設の維持管理にはその知識が不可欠だが、そこでも日本の技術力が生かされている印象を受ける」とも話した。



サッカークラブの子どもたち、都筑健介駐カメルーン大使(北澤さんの右)、協力隊員たちと記念撮影

させるといふ意気込みが伝わってくる。北澤さんは「この大会はなんとしても成功させなければならず、そのために協力していきたい」と語る。リンボ州では草の根技術協力事業「住民参加型HIV/AIDS予防啓発及び感染症支援強化プロジェクト」を視察した。同州は国内で最も貧しい地域の一つであり、ここで活動する(特活)日本国際ボランティアセンター(JVC)の水寄僚子(みずよりのりこ)さんは、地元のNGOとともに、HIV感染者が健康を維持していくための活動(在宅介護、学童保育、栄養改善)を支援している。学童保育施設では地元の母親たちが子どものために作ったおもちゃを紹介し、手作りのダンス衣装を着て踊って見せてくれた。HIV/エイズが深刻な影響を及ぼす中、改善に向けて明るく取り組む彼女たちの努力は必ず良い結果につながることを北澤さんは強く感じた。「お母さんたちに元気をもらった。これからも頑張つてほしい」。別れ際に一人一人と写真を撮り、熱いメッセージを伝え続けた。

200以上の民族を抱えるアフリカの縮図といわれる国だ。貧困が依然大きな問題だが、政治的安定を背景に経済成長が進んでいる。また、サッカー強豪国で、今年のアフリカ大陸選手権では準優勝に輝いた。北澤さんは現役時代のチームメイトだったエムボマ選手の母国としてなじみのある国で強い関心を持っている。そのカメルーンに対し、日本は首都ヤウンデにある総合スタジアムの改修を支援した。今ではきれいな芝の上で国の威信を懸けた試合が行われており、大人から子どもまで日本への感謝の気持ちを伝えてくれる。また、日本への感謝の気持ちを伝えてくれる。「ピッチ(グラウンド)が素晴らしい」とは、子どもたちに夢を持たせるきっかけの一つになるのではないかと北澤さんも喜びの表情を見せた。また、「こうした施設の維持管理にはその知識が不可欠だが、そこでも日本の技術力が生かされている印象を受ける」とも話した。



日本の無償資金協力で改修された首都ヤウンデの総合スタジアム